

平成23年度 学校自己評価表 計画段階

福岡県立太宰府高等学校長 印

No. 1

学校教育目標		学校経営計画（4月）		評価(3月)
昨年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標	
志を持って意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい幸校生の育成を図る。 (1) 知・徳・体の調和のとれた情操豊かで進取の気概に充ち国際性に富み、将来国家社会に貢献できる人材の育成を目指す。 (2) すべての生徒をわが子として育む学校を目指す。				
1 成果 (1) 生徒の実態に応じた学習指導方法の工夫や授業内容の改善 (2) 生徒の進路に関する指導方法の多様な展開と充実 (3) 部活動、生徒会活動の活性化 (4) 学校、家庭、地域社会の連携のとれた教育活動 2 課題 (1) 教職員の指導力の向上と指導方法の改善 (2) 生徒の進路意識の早期確立を目指したキャリア教育の充実 (3) 通学マナー向上と安全教育の徹底	1 学校生活の全領域で生徒指導に基盤をおき、規律と自律性を育む教育の徹底	ア 高校生としての基本的な生活習慣を確立し、規範と責任を自覚し、自律心と道徳の実践力を持つ人間を育成する。 イ 全教育領域で師弟同行を旨とし、生徒自身に本校で学ぶ喜びと誇りを持たせ、郷土・地域を愛する心情を育む。 ウ 生徒会の主体的な活動を促し、生徒の自主性を培い、併せて公共の精神を貴ぶ社会の一員としての資質や態度を高める。		
	2 基礎・基本を徹底し、学習意欲と確かな学力の向上を目指す学習指導体制の構築	ア 基礎学力の定着を図り、全ての生徒が意欲を持って学習し、学力の向上を目指す態度や習慣を育成する。 イ 教師各自が不断に教育内容の充実改善に努めながら、組織的連携の下、個々の生徒の習熟の程度に応じた適切な教科指導を計画し、より学習効果を高める。 ウ 新学習指導要領に基づく新たな本校での学習指導計画を研究し具体的に立案する。		
	3 生涯にわたる「志」を育み、真の自己実現を目指す進路指導の徹底	ア 生徒の3年間を見通した本校における体系的、組織的進路指導計画を作成する。 イ 生徒が自己理解を深め、主体的に進路を探索できるキャリア教育を含めた指導体制を構築する。 ウ 就職希望者に対する有効な指導計画を作成し、それに基づいた指導・支援体制を築き進路実現を図る。 エ 生徒の多様なニーズに応じた進路関係の情報を的確に収集・把握し、適切に提供する。		
	4 本校教育への理解をさらに深める広報活動の充実及び情報の適切な管理	ア 本校の教育内容や特色ある教育活動を適切に発信し理解や信頼を深めると共に、校内情報機器やシステム、HPを適切に運用管理し、業務の効率化と情報の管理を徹底する。		
	5 安全な教育環境の整備と健康・安全に関する指導の徹底	ア 健康診断後の治療勧告等の指導により生徒の自己健康管理能力の向上を目指す。 イ 施設設備の安全点検等により教育環境を更に整備するとともに、生徒への安全教育をさらに推進し、交通マナーや薬物乱用、組織暴力等各種の危機への管理意識を涵養する。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教科指導	生徒の実態に応じた指導を行い、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。	ア 調査毎に結果の分析、検討会を教科毎に設けることで、生徒の実態に応じた指導方法、授業内容の工夫・改善を行う。 イ 生徒による授業評価を年間2回行い、その結果を教科別・個人別に分析することで授業改善に役立たせる。 ウ シラバス等を活用してオリエンテーションや導入期の指導を行い、その後も継続して授業に向かう姿勢や態度、家庭学習について指導する。		
	授業規律のある、落ち着いた学習環境の整備に努める。	ア 授業規律の確立に向け、毎時間、服装や挨拶及び時間厳守等の指導を徹底する。 イ 教材の持ち帰り指導、ロッカーの整備・教室の美化などの指導を行う。		
	新たな学習指導計画を研究し具体的に立案できるようにする。	ア 各教科が本校の生徒の実態に応じた教科指導のあり方等を研究するための資料提供ができるようにする。 イ 新学習指導要領に基づく教育課程や教務内規の作成及び改訂を行う。		
進路指導	進路実績の向上	ア 進路意識を高めるため、「総合的な学習の時間」やHR活動等を積極的に活用し、進路講演会・説明会・個人面談などを実施する。 イ 放課後課外や福大推薦入試対策講座を効果的に実施する。 ウ 小論文・面接指導には体育祭終了後、直ちに取り組む。		
	課外授業の充実	ア 生徒の基礎学力を充実させることを第一の目的とする。3年生については、生徒の進路希望・実態に応じて適切な課外授業を実施する。 イ 土曜セミナーの内容を校外模試や入試と関連づけたり、習熟度別クラス編成をするなどして、生徒の学習意欲を高める。 ウ 2・3年生については、夏季休業中に自学セミナーを実施する。		
	的確な情報の提供・共有とその有効活用	ア 各学年で実力調査や校外模試の結果分析を行い、教科指導等に生かす。 イ 進路説明会・各種ガイダンスを通じて、生徒・保護者に適切な情報提供を行う。 ウ 学費や奨学金については生徒・保護者に十分理解してもらえるよう工夫する。		
人権教育	人権を尊重できる生徒の育成を図る	ア HR活動を利用した人権学習を通して、アサーティブトレーニングなどの人権スキルを学ばせる。 イ 様々な教育活動を通して自尊感情の育成を図る。		
	人権を尊重できる環境作りを努める	ア 生活アンケートの結果を検証し、生徒指導部と協力して、いじめ等がないお互いを気遣うことができる学校環境を構築する。 イ 研修などを通して教員が集団としての力量を高め、生徒が安心し、自信を持って学べる環境を作る。		

生徒指導	基本的生活習慣の確立 (自己指導能力の育成)	ア 担任・副任と連携し遅刻・欠席を0.4%以内に減少させる。 イ 定期的に風紀指導を行い、全職員で徹底した指導を行う。 ウ 生徒会を中心に「挨拶日本一」運動を展開する。			
	生徒会活動の充実	ア 積極的に各種委員会を開催し活性化を図る。 イ 生徒会が中心となり、体育大会・飛梅祭などの学校行事を企画・運営させる。 ウ ボランティア活動を推進するため、地域社会への広報活動を図りながら近隣校との交流を深める。			
	交通安全指導の徹底	ア 交通安全運動を展開することで、安全な行動を心がけ地域の迷惑にならないよう交通マナーを身につける。 イ 全職員による朝課外前及び下校時の交通安全指導を行う。 ウ 5月と10月に自転車安全点検指導を行う。			
保健指導	健康管理に対する意識の向上 と危機管理の充実を図る	ア 体育関係行事における突発的な事故や集団熱中症に対する対応についてはマニュアルを作成し、その組織的な対応について職員への周知徹底を図る。 イ 「さわやか委員会」を通じて心に問題を抱える生徒の掌握に努め、精神科医への相談を促すなど対応の充実を図る。 ウ 健康診断の結果については保護者への早期の連絡を徹底し、確実に治療を行うよう呼びかける。			
	薬物乱用防止教育の充実	ア HRの時間や薬物乱用防止教育講演会を活用して薬物について学び、防止するための知識と態度を育成する。			
	清掃活動の充実	ア 日頃の清掃活動や行事前の大掃除においては監督による指導を徹底し、清掃効果を上げるよう呼びかける。 イ 清掃が不十分な箇所や器物の破損箇所が見受けられる場合は職員朝礼で全職員に連絡し、指導の徹底を図る。			
職員研修	教職員の力量アップに資する 研修の推進	ア 全教職員対象の研修会を実施する。 イ 指導力向上のため、教職員相互の授業参観を実施する。 ウ 「本校生徒の意欲を引き出す授業」をテーマに、全教科の研究授業を実施する。 エ 初任者を育てる体制作りを通じて、教職員集団としての力量を高める。			
	学校内外の一般研修への参加 を促進する	ア 10年経過教員研修会等の校内研修プログラムを計画・推進する。 イ 県教育センター専門研修等への参加を促進する。			
図書	図書館利用の促進	ア 各教科や分掌との連携を図り、毎月特集を組んで図書等の紹介を行う。 イ 小論文対策の情報収集、及び資料提供を行う。 ウ 新入生へのオリエンテーションを実施し、利用法等の周知徹底を図る。			
	委員会活動の活性化	ア 図書委員のオリエンテーションを行い、仕事内容の周知徹底を図る。 イ 図書委員による図書館通信を定期的に発行する。 ウ 福岡地区生徒図書委員会合同研修会に積極的に参加し、意欲・責任感を培わせる。			
	朝の10分間読書の充実	ア 新聞のコラムを用いた朝読書用資料を作成する。 イ 先生のお薦めの一冊を紹介し、生徒の図書への興味・関心を喚起する。 ウ 時事的な情報に基づいて、特集を組み生徒へ紹介する。			
芸術科	芸術科教育の充実にも努める。	ア 芸術科教育内容を充実させ、本格的指導を定着させる。 イ 本校芸術科の特色作りと国際性、社会性の涵養のため、国内研修を実施する。			
	希望に沿った高い目標の進路 実現を目指す。	ア 生徒、保護者、地域が要求する高い進路目標を実現させるため、科独自の指導体制を作り、一致して取り組む。そのための実技指導を行い、公募展出品等の実績を積み重ねる。芸術科生全員が何らかの展覧会で入選を果たし、95パーセントを上回る入選率を目指す。 イ 芸術科教員の密接な協議を行い、連携のとれた指導体制を作り、多種多様な進路に対応する。進路実現達成率90パーセントを目標とする。			
	広報活動に努め、芸術的な意 欲を持った生徒を募集する。	ア 本校芸術科教育に応える意欲ある生徒募集のため、生徒職員一丸となり本校芸術科(美術・書道)の教育内容の広報に努める。また、各地区中学生進路相談事業へ参加し、本校の芸術教育の周知徹底に努める。さらに体験入学のみならず、実技講習会、進路相談会等も積極的に行い教育内容を理解してもらう。			
英語コース	国際教育を推進し、国際人としての資質を高める。また英語運用能力を高めるため、専門科目の内容を充実させる。	ア 海外研修・サマーキャンプ・英語劇・暗唱大会・スピーチ大会・デベート大会など、行事に積極的に取り組ませる。 イ シラバスに従い専門科目の授業を進めながら、さらに生徒の実態に応じて随時見直しを行う。 ウ 本校生徒の長期留学を推進し、留学生も積極的に受け入れる。			
	希望進路実現に努める。	ア 多様な希望進路を実現するため、きめ細かな指導を行う。 イ 在学中に長期留学した生徒に対して適切な進路指導を行う。			
	実用英語技能検定試験やGTECなどの受験を奨励する。	ア 英語コース生は英検を年3回全員受験する。コース全体で2級取得20人以上を目指す。 イ 1・2年生にはGTECを受験させ、コミュニケーション能力の伸長をみる。			
	優秀な意欲ある生徒獲得のため、広報活動を活性化させる。	ア 体験入学や英語コース体験授業の充実を図り、英語コースをより理解してもらう。 イ ホームページの「英語コース通信」を月1回程度発行し、リアルタイムな情報を提供する。			